

地方だより

気象庁電子計算機室

気象庁の竹平町構内の門を入ると、真正面のところに立っている四角の建物が電子計算機室です。

この一階の約3分の2は空気調整室で、3名の専門技術者が従事しています。704型計算機の機能の最適温度である摂氏21度±3度の気温を維持する必要があるからです。一階にはその他にプログラムやデータカードをパンチするパンチ室、毎日の計算結果や今後の調査の方針を議論する討論室があります。

二階には計算機があって下の写真はほぼその全体を示しています。写真中央の格子のような配線と一列に並んだ豆ランプとキーボードのついている部分が704の本体で中央演算装置と呼ばれているもので、ここで各種の演算が命令の順序に従って行われます。手前の低い四角がカードリーダーでinput装置、その手前の大きな四角がプリンターです。中央演算装置の右側のほそ長い四角がmagnetic core その右側がmagnetic drum とよばれている記憶装置です。右端の手前に並んでいるのがTape装置で右の写真はそれを示したもので、tapeは計算途中の記憶や結果のoutputに用います。

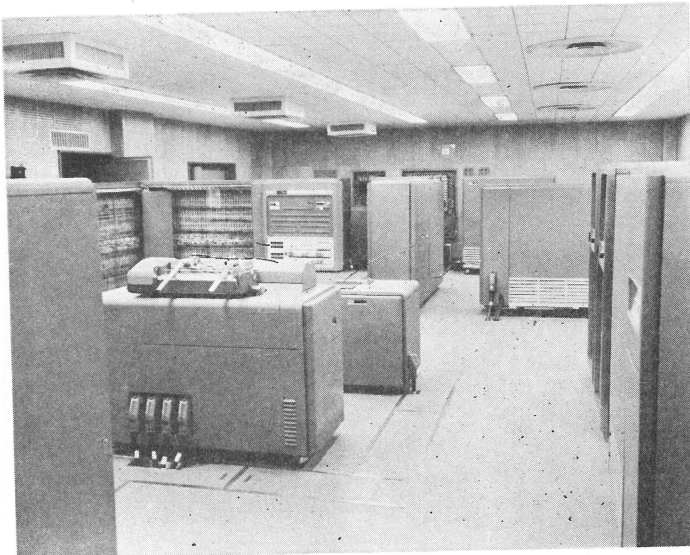
機械室のとなりがオペレーター、プログラマー、調査班の大部屋で、ここで、プログラムを作ったり、テストし



マグネティック・テープ装置

たり、IBM型計算機に関するプログラムライブラリーの整理などを行っています。この大部屋の奥にはIBM技術者から成る計算機のメンテナンスの部屋があり、毎朝一時間、使用前に機械の各unitの調整をします。

計算機室の仕事は大変忙しいのです。長い時間をかけて作ったプログラムも一寸した不注意のミスで計算が止まったり、全く違ったものを計算してしまいます。それですぐにプログラムを修正してテストするか、元の理論式をつくり変えねばなりません。一瞬にして勝負が決まるのです。何よりも人手が少ないことが一番大きな障害になっています。それは電子計算機の歴史がないために、専門のプログラマーが少なく、結局一人で計算すべき問題自身の研究、それにその数値計算化の研究と、そのプログラム化、場合によってはライブラリープログラムの研究までしなければならぬのが現状で、気象本来の仕事にさく時間が殆んどないのが調査班の人達の最大の悩みでありましょう。



IBM 704型電子計算機の全容